



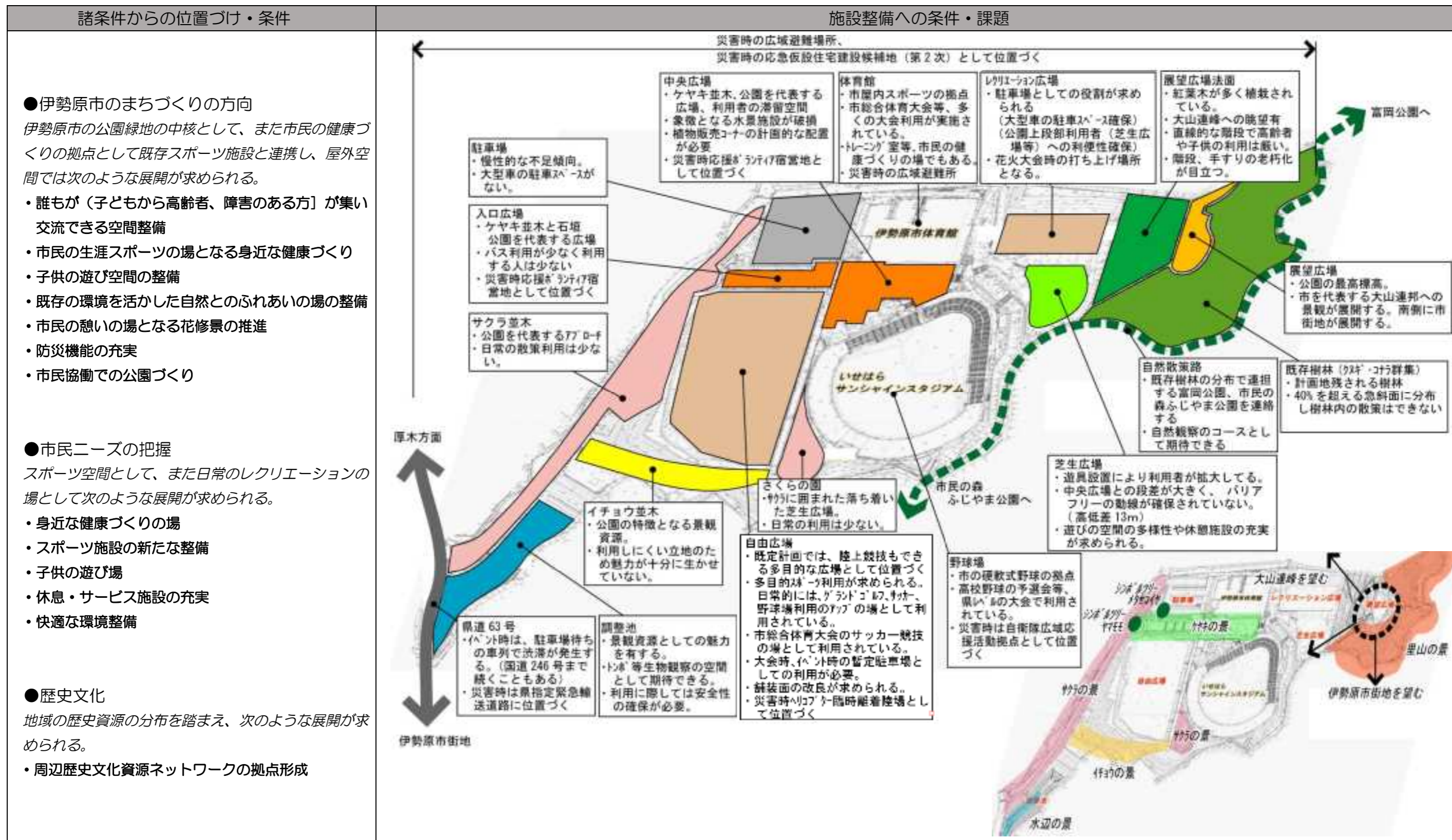
## 伊勢原市総合運動公園 再生修復方針検討委員会

## 第2回資料

1	計画条件・課題の整理	1
2	計画方針の検討	2
	(1) 再生修復に向けての基本方針(案)	2
	(2) 整備方針(案)	2
	(3) 再生修復の考え方	3
3	再生修復計画	5
	(1) 中央広場	5
	(2) 自由広場	5
	(3) 子どもの広場	6
	(4) 展望広場と法面部階段整備	9
	(5) 健康運動施設	9
	(6) 環境学習の場の整備と 散策ネットワークの利用促進	10
	(7) 花木修景の展開	11
	(8) 駐車場の構成	11

# 1. 計画条件・課題の整理

前提条件より、本事業への計画条件や課題を整理する。



## 2. 計画方針の検討

### (1) 再生修復に向けての整備方針（案）

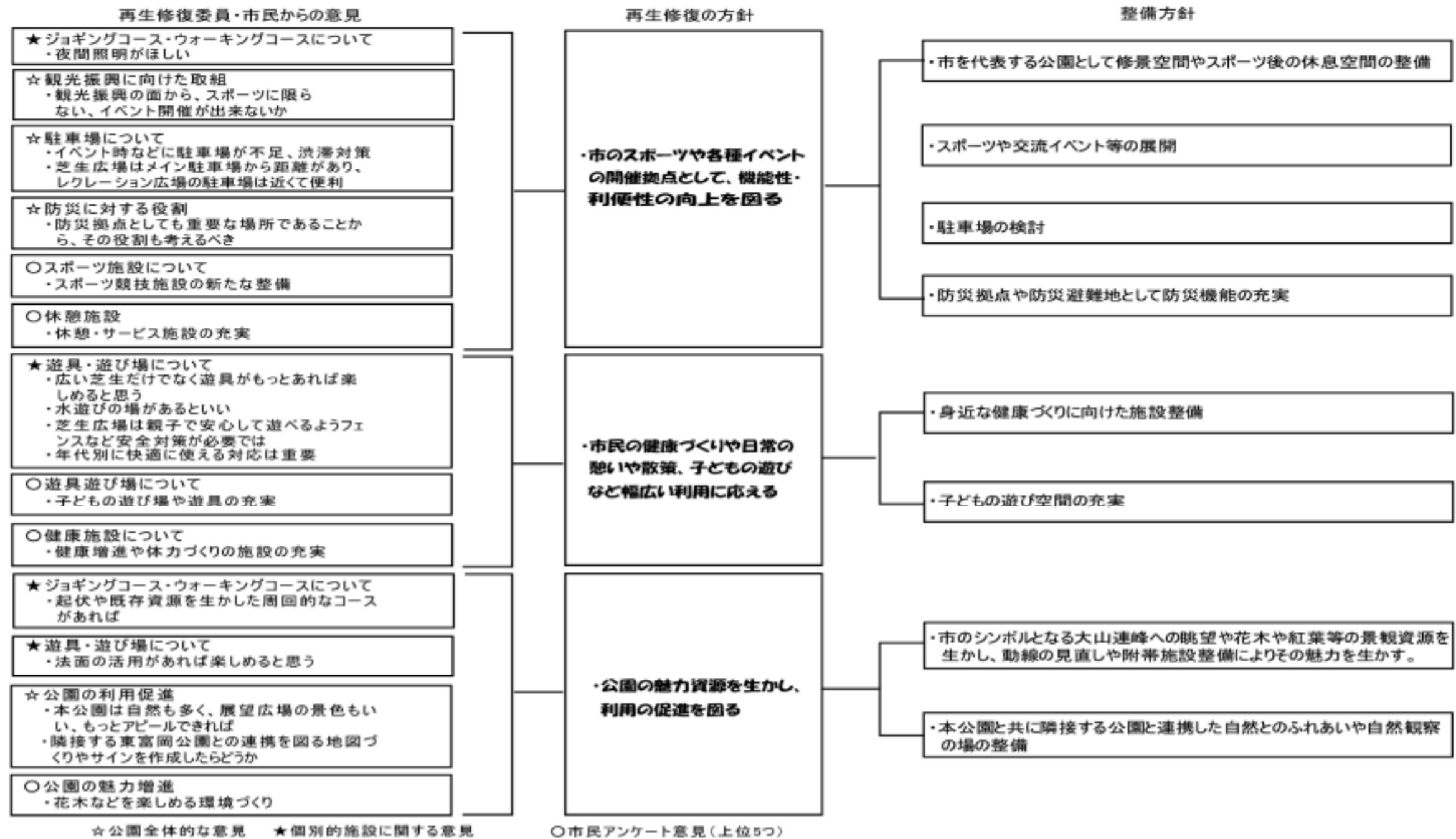
本公園は伊勢原市スポーツの拠点として、市を代表する競技や大会の場であり、同時に市民が集う交流空間でもある。

また、日常的には市民の身近な健康づくりや季節の花木、眺望に親しみりフレッシュの場である。

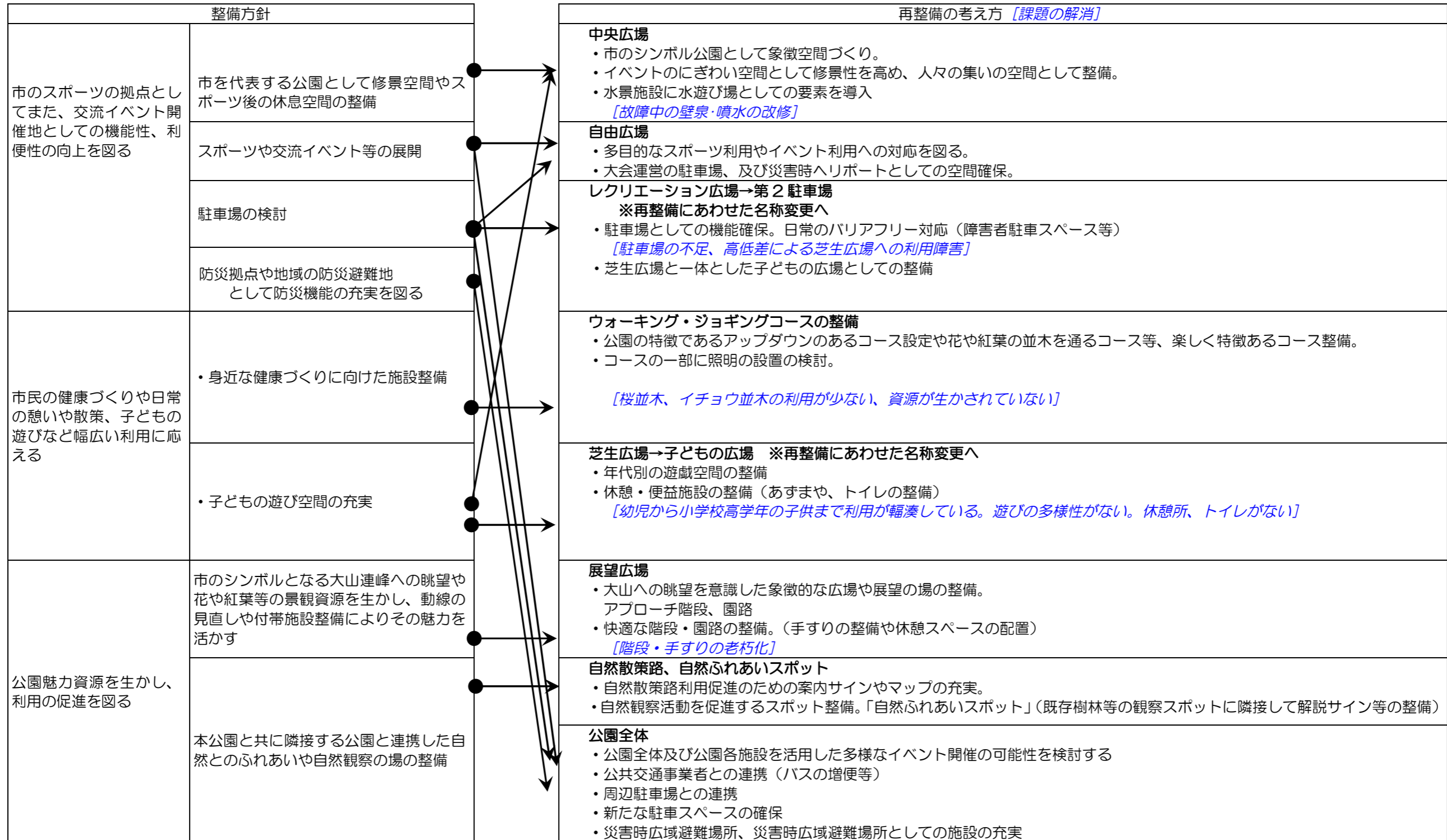
総合運動公園の再生修復にあたっては、スポーツの拠点として、現況で開催される競技や大会活動への機能性を保持しつつ、伊勢原市のまちづくりの方向や現況課題の解決、公園資源の再評価等を踏まえるとともに再生修復委員や市民からの意見等より整備方針を次のように設定する。



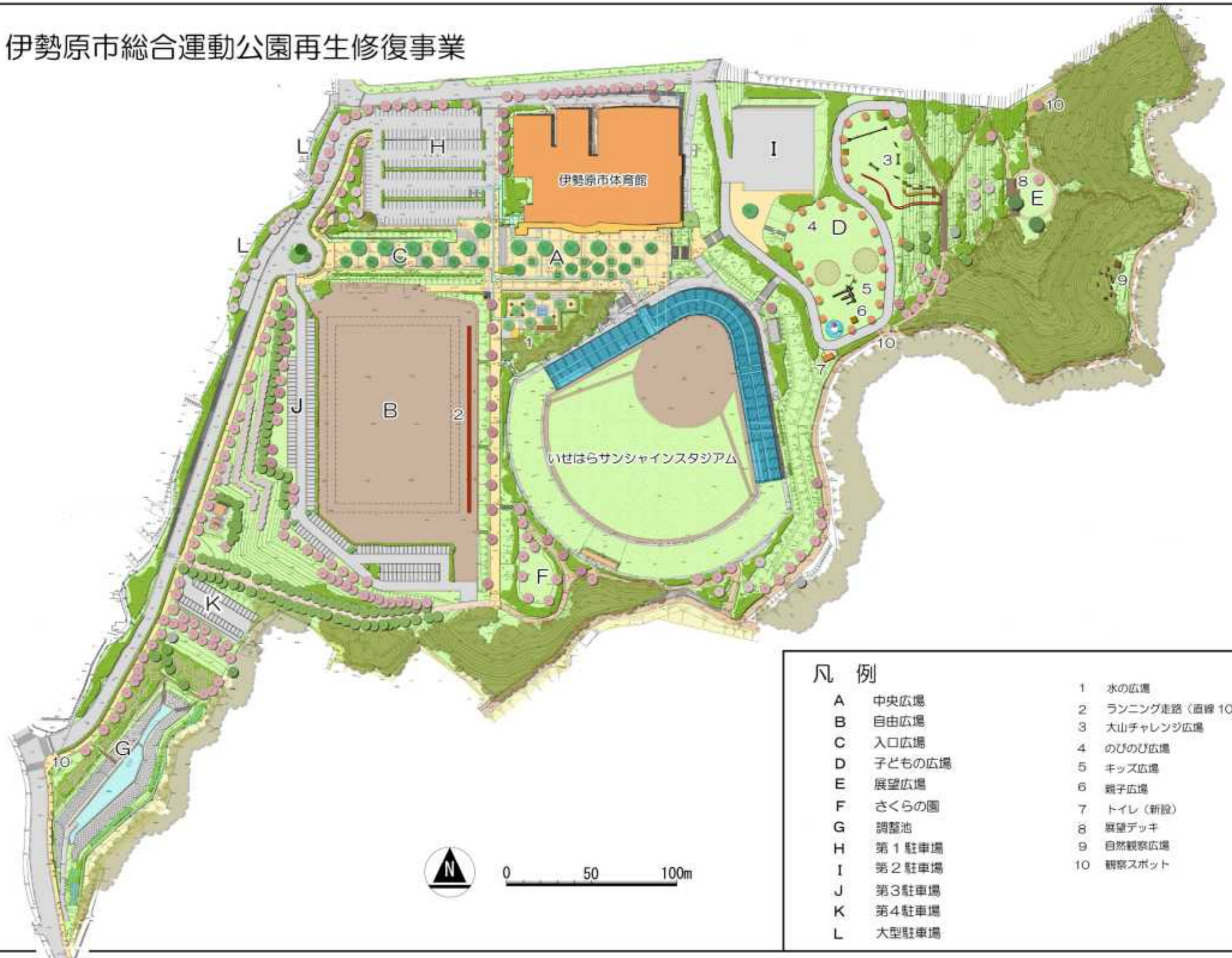
伊勢原市総合運動公園は、大山連峰を背景にスポーツ競技の展開や四季折々の花木の中で憩い、遊びや健康づくりをとおして市民が元気となる公園をめざします。



(3) 再生修復の考え方



# 伊勢原市総合運動公園再生修復事業



### 3. 再生修復計画

#### (1) 中央広場

##### ① 体育館前広場

体育館前広場は公園のにぎわい空間として、開放的で明るい広場を創出する。

広場は現況を維持しつつ、広場内に設置されるサークルベンチ等を新規に整備する。



##### ② 水の広場

現況噴水・壁泉広場は再整備し、緑に包まれたガーデンテラスとして利用者のやすらぎの空間を創出する。

また、広場中央には水のスクエアを配し、広場の修景と共に、夏場の水遊びの空間として利用する。

広場内にはケヤキ植栽の下、テーブル・ベンチセットやパーゴラを設置する。

また、広場西側の園路と接続する位置にキッチンカーなどの接続空間を確保する。



#### (2) 自由広場

自由広場は、課題整理で示すように、現況のサッカーやグランドゴルフ利用とともに、陸上競技の場としての役割が求められている。また、イベントや大会時の臨時駐車場としての対応も求められている。

このような要請に対応するため、現況のグランドとしての形態を継続する。

また、広場東側に100mの直線走路を2コース設置する。

尚、自由広場が災害時にヘリポートとしての役割も担うため、広場内に施設的な整備は行わない。

自由広場西側は、再生修復事業に伴い、駐車場として位置付けるため、自由広場西側外周部にフェンスを設置する。



### (3) 子どもの広場

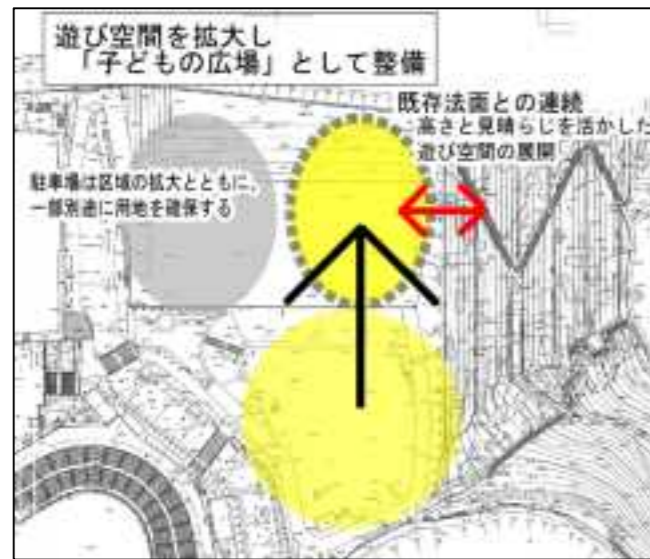
#### ①遊びのエリアの構成

**= 広々とした見晴らしの丘でのびのび遊び、冒険の山にチャレンジする =**

既存の芝生広場を造成で拡大し、広々とした遊びの丘を形成する。

また、既存法面と一体となり、その高さで見晴らしを活かした特徴ある遊びの空間を形成する。

園路は、第2駐車場（旧レクリエーション広場）より、展望広場への階段部までS字状に設置し、展望広場への緩やかでスムーズな動線を確保する、同時に、『冒険遊びゾーン』と『空と大地のゾーン』を明確に区分する。



子どもの広場は大きく次の構成で展開する。

ゾーン	名称	展開イメージ
冒険遊びゾーン	大山チャレンジ広場	広場南側から、連続して遊具を設置し、見晴砦に見立てた複合遊具頂上をゴールとする遊び空間。 複合遊具の頂上は、大山への展望デッキとなり、デッキへは既存の階段や展望テラス連絡する。
空と大地のゾーン	のびのび広場	約 1,500 m <sup>2</sup> のまとまった芝生広場。 基本的に施設は配置しない。 広場外周に緑陰樹や花木（サルスベリ）を植栽。
	キッズ広場	現況複合遊具の拡大または、隣接して新規遊具を設置。 現況の登る・滑る等の遊び要素に加え、ロープや壁を登る遊びなど、アクティブな要素を拡大する。
	親子広場	幼児が安全で安心して遊べる空間を確保する。安全性の高い遊具をコンパクトにまとめ、外周に柵を設置する。 ※既存遊具は移設とする。（親子広場内に再配置）
休憩・便益施設	あずまや・トイレ	あずまやをキッズ広場・親子広場の中間と大山チャレンジ広場に1箇所づつ設置する。 トイレは、親子広場南側に設置する。



#### ○遊びのエリアの規模

・遊具エリア面積：約 7,000 m<sup>2</sup>

※伊勢原市内小学校の1学年の団体利用と市内保育園1箇所の団体が同時に利用できる規模に相当する。

- ・遊具エリアの同時利用：約 210 人
  - ・市内小学校の1学年の遠足……約 100 人(※-1)  
(伊勢原市小学校の平均：1学年4学級、1学級25人)
  - ・市内保育園1箇所の遠足……約 110 人(※-2)  
(伊勢原市公立・私立保育園の平均定員約 110 人)
- ・遊具エリアの規模：約 7,000 m<sup>2</sup>
  - ・210人×30 m<sup>2</sup>/人=6,300 m<sup>2</sup>→広場として7,000 m<sup>2</sup>を確保。  
※1人当たり空間原単位：30 m<sup>2</sup>(※-3)



○出典

- ※-1 伊勢原市小学校（平成 29 年 5 月 1 日現在）  
小学校数 10 校 児童数 4,972 人 学級数 201 学級  
上記規模より 4 学級/学年 25 人/学級 → 約 100 人/1 学年
- ※-2 伊勢原市公立・私立保育園（平成 29 年 7 月 31 日現在）  
公立・私立保育園数 11 園 利用定員合計 1,170 人  
上記規模より 約 110 人/園
- ※-3 ピクニック広場空間原単位：30 m<sup>2</sup>/人  
遊具だけでなく芝生園地の広がりも含むものとしてピクニック園地の原単位を採用  
『公園緑地の計画と実施』（社団法人全日本建設技術協会）



複合遊具・ロングスライダー  
見晴らし岩に見立てた複合遊具の設置  
(遊具トップは大山を望む階段テラス)

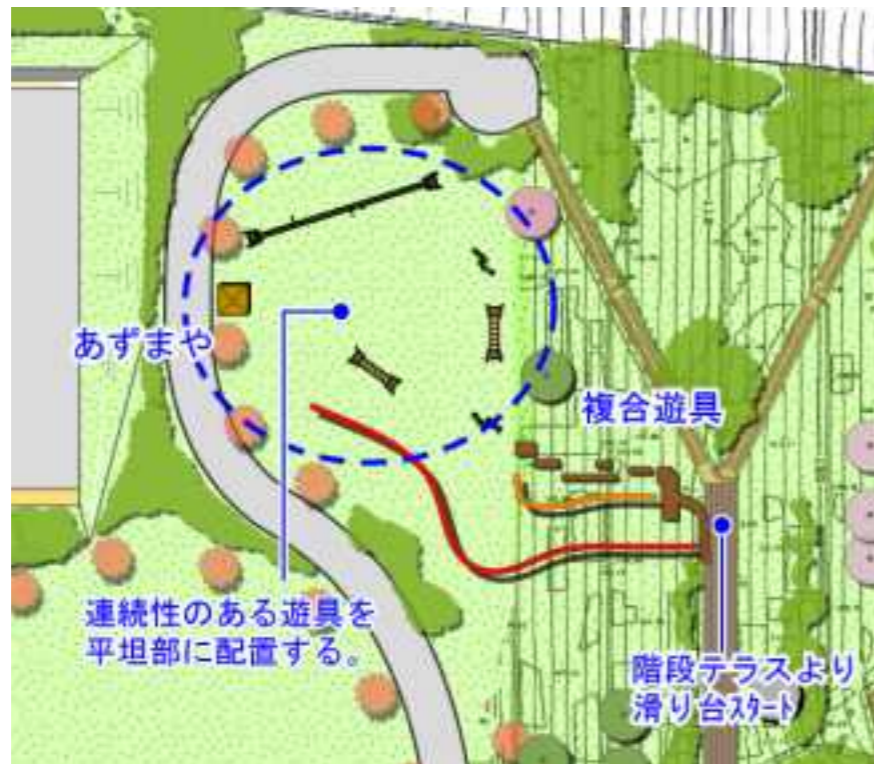
遊びの連続性を発揮する遊具(複合遊具と一体となった遊びの展開)

②遊びのエリアのイメージ

1) 冒険遊びゾーン

i 大山チャレンジ広場

斜面部に複合遊具を配置。(遊具イメージにより滑り台のスタート地点が異なる)  
平坦部には連続性のある遊具を配置。



2) 空と大地のゾーン

i のびのび広場

開放的な芝生広場。自由に駆け回ることのできる広場。親子のピクニック空間。



ii キッズ広場・親子広場



・キッズ広場

既存遊具を中心に幅広い遊びの空間として、遊びのバリエーションを拡大する。(3～12歳程度を対象)

- ・ 既存複合遊具に遊びの要素追加
- ・ 既存遊具に隣接して新規大型単体遊具の設置。

既存複合遊具への遊び要素の追加(イメージ)



新規大型単体遊具のイメージ



・親子広場

既存の滑り台、砂場などを移設し、親子で安全に遊べる幼児用の遊び場を設置する。

また、新規に幼児遊具をマット上に配し、周囲にフェンスを設置した複合遊具を設置する。(1～3歳程度を対象)



③休憩・便益施設

子ども達の遊びを見守る位置にあずまやを設置する他、水飲みやトイレを設置する。



#### (4) 展望広場と法面部階段整備

##### ①展望広場

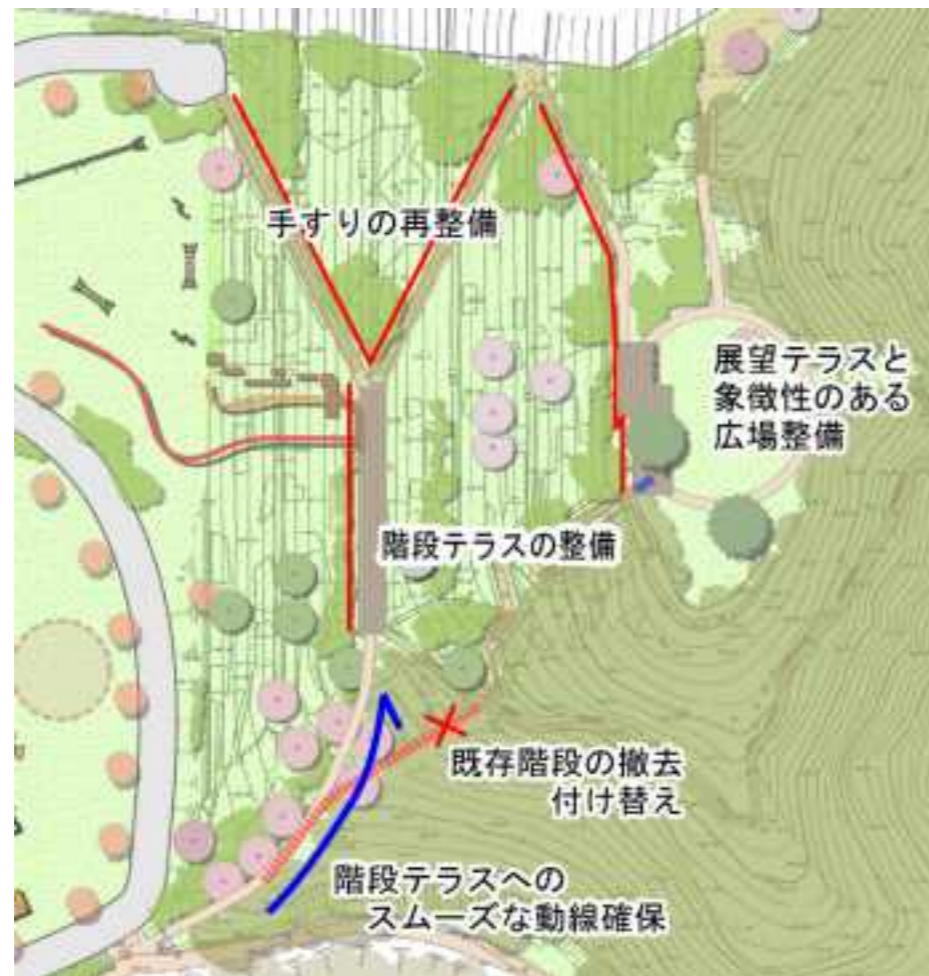
展望広場及び法面中段は、大山への景観をゆっくりと眺めるテラス空間を整備し、ベンチを設置する。  
また、広場全体を大山への方向性を意識した象徴的な空間とするため園路形態をテラスと合わせた形態に変更する。



##### ②法面部階段整備

展望広場への階段は、再整備にあたり冒険遊具との連絡動線ともなることから、階段部で劣化がみられる手すりを再整備する。

また、法面南側の散策路を一部付け替え、遊具とつながる中段、階段テラス部にスムーズな動線確保する。



#### (5) 健康運動施設

##### ①ランニング・ウォーキングコース

短距離の練習コースとして自由広場内に 100mの直線走路 2 本をランニング専用コースとして整備する。

また、幅広い年齢層の利用者が楽しめる健康づくりのコースとして距離別の周回コースを整備する。

各コースは大山の眺望を楽しむコースや公園を代表する桜観賞のコースなど特色を持たせる。

また、各コースは、自由広場東側、中央広場と接する位置を「スタート」とする。コースの一部に照明の設置を検討する。

- ランニング専用コース 直線走路 100m 2 本
- [健康づくりコース] 1 周 460m、
- [桜並木コース] 1 周 680m
- [山並みコース] 1 周 1040m



## (6) 環境学習の場の整備と散策ネットワークの利用促進

本公園を拠点として自然観察や自然環境の保全育成活動を実施する団体と連携し、環境学習として市民や学校等にプログラムを提供する。

環境学習活動では、総合体育館での情報提供と共に、活動の拠点を既存樹林地西側の炭焼き小屋に位置付け、現地でのレクチャーの場とする。

また、日常の公園散策の中で、身近に公園の自然や保全育成活動の内容がわかるよう、活動拠点や自然散策路等主要な自然観察ポイントに解説板を設置する。

これら自然観察ポイントの解説は、セルフガイドシステムとして、ネットワークする公園や市民の森と一体的に実施し、案内サインやガイドマップの作成により、利用促進を図る。



[本公園で活動する団体]  
 ○グリーンインストラクター  
 : グリーン・ハート・スクールとして公園及び周辺で草花や野鳥の観察会等を実施。  
 ○NPO 法人いせはら森の会  
 : 公園内の既存樹林の管理やカタクリ、ヤマユリ等の育成、炭焼き等の活動を実施。

### (7) 花木修景の展開

本公園は、桜の名所とともに『公園緑花まつり』の開催等、花と緑に親しむ場として人気が高い。

再整備として、新たな園地整備や環境整備を行うに当たっては、現況の花木修景の展開を踏まえ、花の少ない初夏から夏にかけて開花する花木の展開を計画する。

子どもの広場では、芝生外周部にサルスベリを植栽する。



### (8) 駐車場の構成

駐車場は現況駐車場に加え、新たに常設駐車場を5箇所整備する。  
(大型駐車場含む)

現況駐車場を第1駐車場とし、子どもの広場西側(第2駐車場)、自由広場西側(第3駐車場)、調整池北側(第4駐車場)、及びアプローチ園路沿いに大型駐車場を整備する。

これら常設駐車場に加え、自由広場の臨時対応を含め、現況駐車台数以上を確保する。

